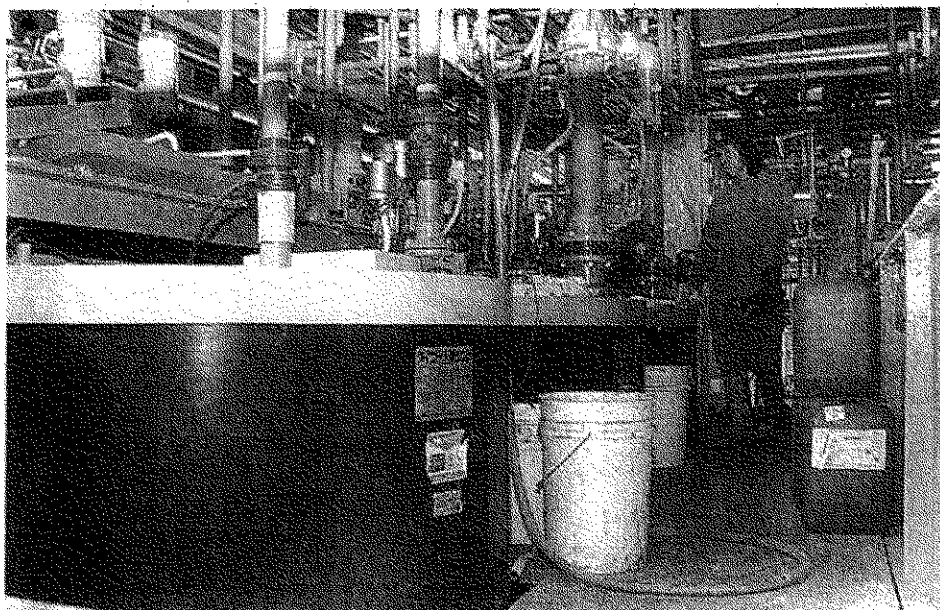


産廃処理工場に新プラント導入



工場排水に硫化剤を加えて硫化化合物を生成するタンク

排水から重金属回収

産業廃棄物処理のみならず工業(長野市)は、金属表面加工工場の排水などから、ニッケルや亜鉛などの重金属を含む汚泥を分離するプラントを本社工場内に導入した。分離した重金属のうち、ニッケルは米国の資源メーカーに販売を開始した。排水はこれまで、汚泥処理した上で埋め立てるケースが大半だったため、同社は「環境面にも配慮できる」としている。

プラントは、アクアテ成して脱水、ろ過して、ツク(大阪市)が開発。重金属を含む化合物を汚みせず工業が実験用の排水として取り出す仕組みを約四年前から提供し、排水の残りは「無てきた。昨年十月から害となる」(同社)とし本格稼働し、今年一月ている。からニッケルを含む汚泥。硫化剤は入れすぎるとの販売を開始した。工有毒な硫化水素が発生す場排水に硫化剤、凝結剤などの欠点があり、ここを加えて硫化化合物を生れまでプラントの実用化

みすず業 ニッケルなど販売 事業に

が難しかった」(アクアテック)が、硫化剤の投入量を自動制御することで有毒ガスの発生を抑えた。導入費用は二千五百万円程度という。

これまでに一カ月平均二百立方メートルの排水を処理。ニッケルを含む汚泥はこれまでに約十五トンを販売した。

みすず工業は、産業廃棄物の収集、運搬、中間処理が中心。今回のプラント導入で、回収した金属の販売を事業の核に育てる方針だ。同社の横山昌夫取締役は「排出業者との取引が増えれば銅などほかの有価金属にも取り組む。販売先を拡大したい」と話している。